通報先電話番号記録欄

通報先	電話番号
1	(　　)　　-
2	(　　)　　-
3	(　　)　　-
4	(　　)　　-
5	(　　)　　-
6	(　　)　　-
7	(　　)　　-
8	(　　)　　-
9	(　　)　　-
10	(　　)　　-
11	(　　)　　-
12	(　　)　　-
13	(　　)　　-
14	(　　)　　-
15	(　　)　　-
16	(　　)　　-

火災通報ボタンを押したときのメッセージ

ピピピ・ピピピ・火事です。火事です。

〔　　〕

逆信してください。

自動火災報知設備が作動したときのメッセージ

ピンポン・ピンポン・自動火災報知設備が作動しました。

〔　　〕

逆信してください。

連絡先一覧表　施工店や点検契約店など、記入されておくと便利です。

点検契約店	TEL
施　工　店	TEL
設備竣工	年　　月　　日

パナソニック電工株式会社　HA・セキュリティ事業部
〒514-8555 三重県津市藤方1668

生産終了品
この商品は生産終了にともない製造することができません
©Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2009

K0109-0A

Panasonic

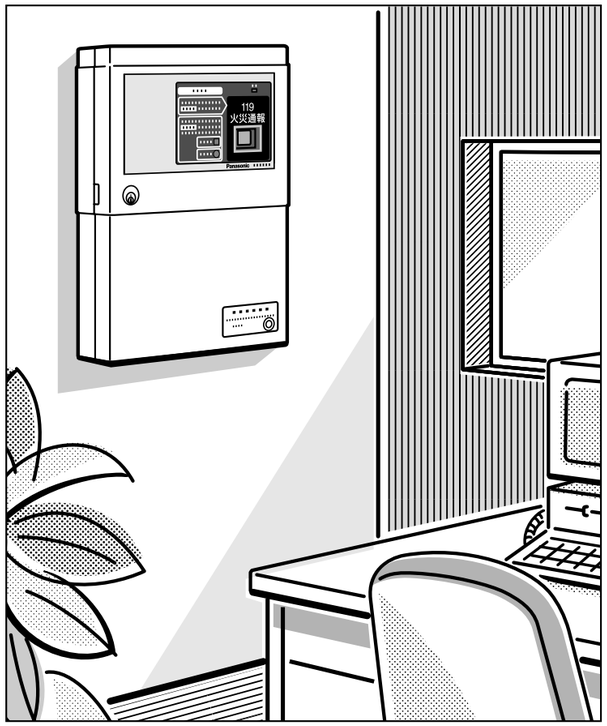
火災通報装置
（応答確認ランプ付）（音声ロムパック別）
（BGF1196）

火災通報専用電話機
（BGT1192）

取扱説明書

施工説明書別添付

- このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。**ご使用前に「安全上のご注意」（1～2ページ）を必ずお読みください。**
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては責任を負い兼ねることがあります。



ご使用前に

- この設備は、自動火災報知設備の作動や火災通報ボタンを押すと、119番へ自動的に「火災発生」を知らせる働きをします。したがって、この設備は消火を行うものではありません。万一の火災などによる損害については、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
- この設備は皆様の生命・財産を火災から守るための大切な設備です。取扱説明書をよく読み、各機器の正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。
- この設備は、常に正常な状態を維持するよう、有資格者による定期点検と日常の点検を行ってください。

〔定期点検は、施主様と施工店または点検契約店でご契約ください。〕

- 必ず2～3ページをお読みください。
- 取り扱いされる方は5～12ページをお読みください。
- 点検・施工される方は13～20ページをお読みください。

取り扱いについてのご注意

- 平常時には次のことを守ってください。火災通報装置の取り扱いを誤ると火災時に正しく作動せず、避難や消火活動が大幅に遅れるおそれがあります。
  - 電源スイッチや電池を切らない。
  - 正常な監視状態にあるか確認する。（8ページ参照）
- 警報が鳴ったら、まず現場を確認してください。

火災の場合	●火災通報ボタンを押す。 ●避難誘導および、可能であれば初期消火をする。
火災でない場合	●発生原因がわかれば取り除く。 ●発生原因不明のときは点検契約店に連絡し、再発防止を施す。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や物的損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重症を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の記号で説明しています。（次は図記号の例です。）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠警告

■取り扱い管理される方へ

禁止	●防火管理者および消防設備士などの資格者以外は機器内部に手を触れない。 感電・故障の原因になります。
分解禁止	●機器を分解したり、修理・改造はしない。 感電・故障の原因になります。
ぬれ手禁止	●ぬれた手で機器をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。 感電・故障の原因になります。

■点検・施工される方へ

禁止	●電池は火に投入したり、ショートさせない。 爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。 ●リチウム電池を取りはずした場合は、小さなお子様がリチウム電池を誤って飲まないようにする。 ●リチウム電池はお子様の手の届かないところへ置く。 万一、お子様が飲みこんだ場合は、ただちに医師に相談してください。 ●鉛蓄電池は絶対に分解しない。 ●鉛蓄電池は内部に劇物の希硫酸を保持しています。鉛蓄電池から漏液した場合は、皮膚や衣服に付着させないでください。万一付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。とくに、液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。 希硫酸が目に入ると失明、皮膚に付くとやけどの原因になるおそれがあります。
分解禁止	●機器を分解したり、修理・改造はしない。 感電・故障の原因になります。
ぬれ手禁止	●ぬれた手で機器をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。 感電・故障の原因になります。
必ず守る	●電池は必ず接続する。電池が接続してないと停電時に機能しません。

⚠注意

必ず行う	●リチウム電池は極性に注意して表示通りに入れる。 極性を間違えると、リチウム電池の破裂や液もれの原因となります。 ●鉛蓄電池は定期的（1年～3年）に交換する。 停電補償ができなくなり、事故の原因になります。

定期点検について

防災設備は、設置後の保守点検・維持管理がともなって、はじめて正常な機能を発揮する商品です。
施工店または点検契約店と「点検契約」を結んでください。

点検は法律で義務づけられています……

消防関係法令では、防火対象物の責任者（建物の所有者、管理者または占有者）は、定期点検の実施およびその結果を報告するように定められています。点検の結果は維持台帳に記録し、定められた期間ごとに消防長または消防署長に報告しなければなりません。

■消防法施行規則第31条の4

- 点検は、消防用設備などの種類および点検内容により1年以内で、消防庁長官が定める期間ごとに行う。
- 点検を行った結果は、維持台帳に記録し、消防機関へ報告を行わなければならない。

■点　検

対象の設備	点検の内容および方法	点検の期間
自動火災報知設備	外観点検および機能点検	6カ月に1回
	総合点検	1年に1回
配線	総合点検	1年に1回

■報　告

特定防火対象物の場合	1年に1回
特定防火対象物以外の場合	3年に1回

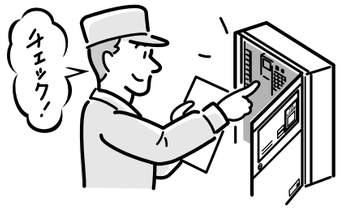
点検には資格が必要です……

定期点検は、国が定めた資格者（消防設備点検資格者または消防設備士）が行うよう、法令で決められています。

■消防法第17条の3の3

- 消防用設備の点検は、消防設備士または総務大臣が認める資格者に行わせなければならない。

「パナソニック防災取扱店と点検契約」をおすすめします



パナソニック防災取扱店などと「点検契約」を結びますと、専門の知識・技術を持つ有資格者が定期的に訪問し、責任を持って防災設備の点検をいたします。防災設備の正常な機能を維持するために、「点検契約」を結ばれることをおすすめします。

取り扱いされる方へ

もくじ

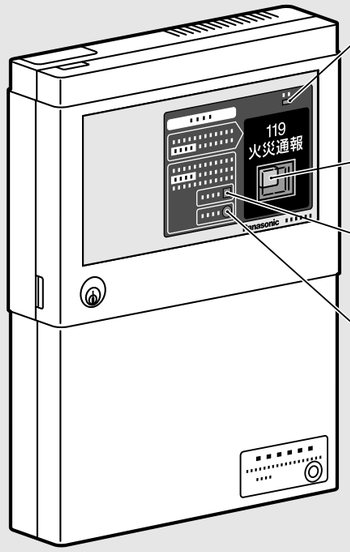
1.各部のなまえとはたらき ―― 6
- 火災通報装置（BGF1196）……6
- 火災通報専用電話機（BGT1192）……6

2.使用上のご注意 ―― 7
3.お手入れ方法 ―― 7
4.平常時の火災通報装置の状態 ―― 8
5.操作をする前に ―― 9
- 通報動作について……9
- 通報メッセージについて……9
- 通報の優先順位……9
- こんな使い方ができます……9

6.通報動作 ―― 10
7.誤って火災通報ボタンを押してしまったとき ―― 11
8.日常点検 ―― 11
9.異常時の点検・処置 ―― 12

1.各部のなまえとはたらき

■火災通報装置（BGF1196）



電源ランプ
交流電源が入っていることを点灯で知らせます。「早い点滅（0.5秒周期）」で通報動作中であることを、「遅い点滅（1秒周期）」で予備電源（鉛蓄電池）で動作していることを知らせます。

火災通報ボタン
押すと119番に自動通報します。（10ページ参照）

応答確認ランプ
ダイヤル中は点滅し、相手が応答すれば点灯します。
（9ページ参照）

通話割込ボタン
押すと通報取り消し、または通話割り込みができます。

通報取り消し
●応答確認ランプが点滅中に、専用電話機の受話器を掛けたまま通話割込ボタンを押すと、通報を取り消すことができます。

通話割り込み
●119番が応答後（応答確認ランプ…点灯）専用電話機の受話器を取り、通話割込ボタンを押すと119番と通話ができます。

■火災通報専用電話機（BGT1192）

音量調整スイッチ
●スピーカー音量を大・小で調整できます。

応答確認ランプ
ダイヤル中は点滅し、相手が応答すれば点灯します。
（10ページ参照）

通話割込ボタン
押すと通報取り消し、または通話割り込みができます。

通報取り消し
●応答確認ランプが点滅中に、受話器を掛けたまま通話割込ボタンを押すと、通報を取り消すことができます。

通話割り込み
●119番が応答後（応答確認ランプ…点灯）受話器を取り、通話割込ボタンを押すと119番と通話ができます。

火災通報ボタン
押すと119番に通報します。（10ページ参照）

受話器
119番と通話するときに使います。

2.使用上のご注意

●この設備は、火災を通報するための専用設備であり、救急要請・救助要請などの通報には、使用しないでください。
●この設備は、設置した防火対象物の火災通報のみに使用できるものであり、隣棟などの火災通報は、一般の電話機で行ってください。
●通報した後、誤報が判明した場合は、すぐに火災通報専用電話機（BGT1192）などで訂正または、通報取り消しをしてください。（11ページ参照）
●通報した後、火災状況に関する具体的な内容について、消防機関から呼び返しがあった場合は、火災通報専用電話機（BGT1192）または一般電話機（専用電話機として使用している場合）を取って通話してください。

3.お手入れ方法

注 清掃時にスイッチを操作しないよう十分注意してください。誤って操作すると119番に通報するおそれがあります。

●ふだんのおそうじは…

やわらかい布でふき取ってください。

●汚れが目立つときは

中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。

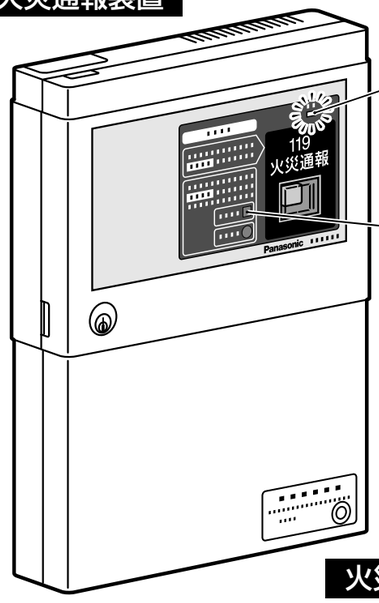
〔化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。〕

注
ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、使用しないでください。

4.平常時の火災通報装置の状態

●火災が発生したとき、火災通報装置が正常に動作するよう、平常時は下図の状態であることをお確かめください。
平常時において下図のような状態とならない場合は、「9.異常時の点検・処置」（12ページ）の内容を確認のうえ、なお異常がある場合は点検契約店にご連絡ください。

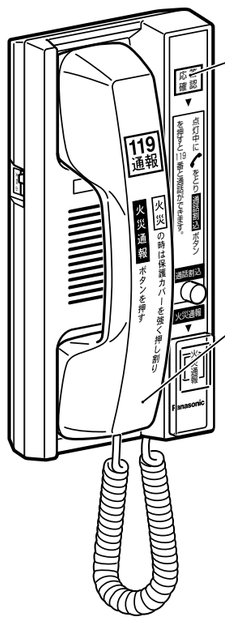
火災通報装置



電源ランプは常に点灯

応答確認ランプは常に消灯

火災通報専用電話機



応答確認ランプは消灯

受話器は正しく
掛けられていること

5.操作をする前に

■通報動作について

●自動火災報知設備の作動や火災通報ボタンが押されると、自動的に119番および、あらかじめ設定された一般通報先（最大16ヵ所）に通報メッセージが通報されます。

起動→（119）→（一般通報先1）→（一般通報先2）→（一般通報先3）→…（一般通報先16）

通報動作はオールコール（＊1）と応答エンド（＊2）の設定ができます。
（施工店にご相談ください。）

（＊1）オールコール通報動作（すべての一般通報先が応答するまで呼び出します。）

1. あらかじめ設定してある一般通報先を自動的にダイヤルし、相手の応答を待ちます。
（50秒間、応答がない場合、次の一般通報先に動作が移ります。）
2. 相手が応答し、受話器を置くと次の一般通報先に動作が移ります。
3. 応答しない通報先には、合計18回通報します。

（＊2）応答エンド通報動作（一般通報先が、1ヵ所応答すると通報動作を終了します。）

1. あらかじめ設定してある一般通報先を自動的にダイヤルし、相手の応答を待ちます。
（50秒間、応答がない場合、次の一般通報先に動作が移ります。）
2. 相手が応答し、受話器を置くと通報動作は終了します。

■通報メッセージについて

●火災通報ボタンまたは増設した火災通報用押ボタンを押したときのメッセージ（F1）
ピピピ・ピピピ．火事です。火事です。＊＊＊＊（住所・名前など）＊＊＊＊逆信してください。
●自動火災報知設備が作動したときのメッセージ（F2）
ピンポン・ピンポン・自動火災報知設備が作動しました。＊＊＊＊（住所・名前など）＊＊＊＊逆信してください。

■通報の優先順位

自火報連動による通報（F2）より火災通報ボタンまたは火災通報用押ボタンによる通報（F1）が優先します。

注 **●火災通報ボタンまたは火災通報用押ボタンを押したときの通報動作中は、自火報連動による入力は受け付けません。**
●自火報連動入力による通報動作中に火災通報ボタンまたは火災通報用押ボタンを押した場合、通報メッセージが火災通報ボタンまたは火災通報用押ボタンを押したときのメッセージにかわります。

■こんな使い方ができます。

施工店設定 **機能設定により、下記のような設定ができます。（施工店にご相談ください。）**

●火災通報装置の設定により、火災通報専用電話機（BGT1192）への送出音量・本体の音量・不定フレーズ・固定フレーズの音量を調整することができます。

6.通報動作

注 ●通報が確実に行われたかどうかは、消防機関からの逆信に応答することで確認することができます。ただし、火災の状況により逆信に応じられなかった場合は、他の手段（たとえば別の電話機を使用して消防機関に通報するなど）で通報および確認されることをおすすめします。
●応答確認ランプが点滅のままで点灯に変わらない場合または、通報しない場合は他の手段で通報してください。
●通話中に自動火災報知設備が作動したり、火災通報ボタンまたは火災通報用押ボタンが押された場合、通話を強制切断し通報動作に入ります。また着信中も同じように強制切断します。

1 火災現場の確認。

2 火災通報ボタンまたは火災通報専用電話機(BGT1192)の火災通報ボタンまたは火災通報用押ボタンを押す。

3 119番へ自動ダイヤルされる。
●スピーカーから119番通報中の信号音と119番に通報されるものと同じメッセージがながれます。
●火災通報装置（BGF1196）・火災通報専用電話機（BGT1192）の応答確認ランプは点滅します。

4 119番とつながる。
●通報メッセージを送信します。（9ページ参照）なおメッセージが流れている間に通話割込ボタンを押すと119番と通話ができます。（メッセージの送信は停止します。）

注 **一般電話機（専用電話機として使用している場合）の場合は、火災通報装置の通話割込ボタンを押してください。**

●火災通報装置（BGF1196）・火災通報専用電話機（BGT1192）の応答確認ランプは点灯します。

注 **119番が話し中または応答しない場合は、自動通報を続けて合計98回のリダイヤルを繰り返します。**

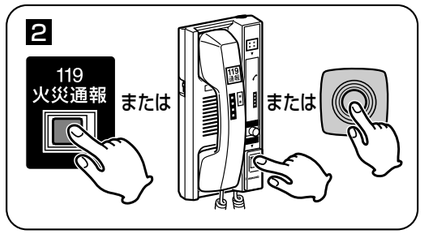
5 119番からの逆信。（呼び返し）
●火災通報専用電話機（BGT1192）または一般電話機（専用電話機として使用している場合）の呼出音が鳴ります。

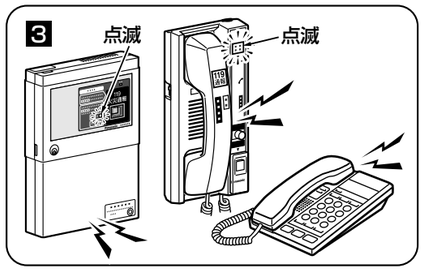
6 火災通報専用電話機（BGT1192）または一般電話機（専用電話機として使用している場合）の受話器を上げる。
●119番と通話ができます。

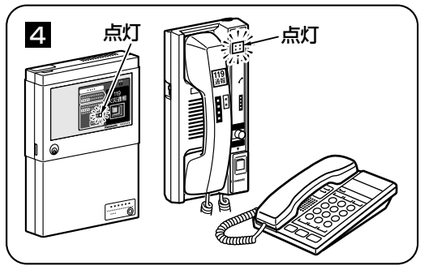
7 119番との通話が終了する
●火災通報装置（BGF1196）・火災通報専用電話機（BGT1192）の応答確認ランプは、約15秒点灯しています。

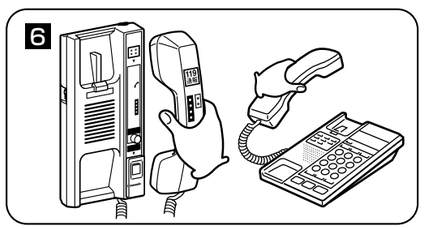
8 あらかじめ設定してある一般通話先（最大16ヵ所）に自動通報します。
●応答すると通報メッセージを自動的に送信します。
●一般通報先が受話器を置いたとき、または設定した時間（60秒または300秒）経過後、次の一般通報先へ通報動作が移ります。

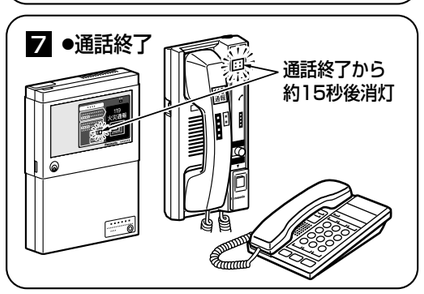
●通報動作終了後、火災通報ボタンを元に戻す。
●通常の監視状態に戻る。
●自動火災報知設備が作動した場合は、3の動作から始まります。
●火災通報装置に接続してある通報ベルは、119番からの逆信（呼び返し）を受信するまで鳴動します。逆信受信後、鳴動停止します。
●火災通報装置に接続してある確認ランプは、119番からの逆信（呼び返し）を受信してから通話終了後、約15秒経過するまで点灯します。







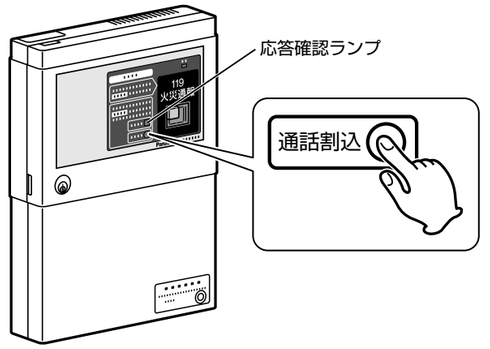




7.誤って火災通報ボタンを押してしまったとき

●すぐに火災通報装置（BGF1196）または火災通報専用電話機（BGT1192）の通話割込ボタンを押してください。

注 ●119番が応答するまえ（応答確認ランプ点滅中）であれば、通報を取り消すことができます。
●119番が応答した後でも通話割込ボタンを押すと通報メッセージが止まり、火災通報専用電話機（BGF1192）または一般電話機（専用電話機として使用している場合）で119番と通話できますので、間違いであることを伝えてください。
●一般通報先への通報中においても通報先が応答するまえ（応答確認ランプ点滅中）であれば以降の通報は取り消されます。この場合、すべての通報先には、間違いであることを伝えてください。



8.日常点検

⚠注意

必ず守る

●日常、次の点検を行う。
緊急時の操作に支障をきたしたり、不動作、作動遅れ、誤動作の原因となります。

火災通報装置	1．「4.平常時の火災通報装置の状態」に保たれているか？（8ページを参照） 2．近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか？
火災通報専用電話機 一般電話機（専用電話機として使用している場合）	1．変形、損傷などがないか？ 2．近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか？ 3．受話器がはずれていないか？
確認ランプ	1．ランプが消えていないか？ 2．カバーの割れ、亀裂はないか？
通報ベル	1．変形、損傷などがないか？

機器に異常が見つかった場合は、点検契約店へご連絡ください

9.異常時の点検・処置

⚠注意

必ず守る

●この設備に異常があるときは以下の点検・処置をする。
異常を放置すると火災時に通報ができないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

●以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置をしてください。

状　態	点　検	処　置
電源ランプが消えている。	火災通報装置専用ブレーカーが「切」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入」側にする。
電源ランプが遅く点滅(1秒周期)している。(早い点滅(0.5秒周期)は、通常動作中です。)	火災通報装置専用ブレーカーが「切」側になっていないか？	専用ブレーカーを「入」側にする。
火災でないのに通報動作をする。	火災通報用押ボタンが押されていないか？	火災通報用押ボタンを元に戻す。

●以下の異常状態のときは施工店または点検契約店に連絡してください。

状　態	点　検	処　置
専用ブレーカーが「入」側になっていても電源ランプが消えている。	鉛蓄電池が接続されているか？	火災通報装置内の鉛蓄電池を接続する。(18ページ参照)
	火災通報装置内の交流電源スイッチが「OFF」側になっていないか？	火災通報装置内の交流電源スイッチを「ON」側にする。
	交流一次側ヒューズ(FU1・FU2)が切れていないか？	ヒューズ(FU1・FU2)を交換する。
専用ブレーカーが「入」側になっていても電源ランプが遅く点滅(1秒周期)している。(早い点滅(0.5秒周期)は、通報動作中です。)	火災通報装置内の交流電源スイッチが「OFF」側になっていないか？	火災通報装置内の交流電源スイッチを「ON」側にする。
	交流一次側ヒューズ(FU1・FU2)が切れていないか？	ヒューズ(FU1・FU2)を交換する。
119番通報をしない。または、点検時に音声メッセージを送出しない。	設定スイッチの1が2側(ON)になっていないか？	火災通報装置内の設定スイッチの1を全側(OFF)にする。(施工説明書6ページ参照)
	設定スイッチの2がTEST側(ON)になっていないか？	火災通報装置内の設定スイッチの2を一側(OFF)にする。(施工説明書2ページ参照)
	音声ロムパック(BGF92)(別売)が取り付けられているか？	音声ロムパック(BGF92)(別売)を取り付ける。(施工説明書8ページ参照)
通報をしない。	モジュラーコードが接続されているか？	火災通報装置内のモジュラーコードを接続する。
	露出タイプローゼットおよび内部配線が断線していないか？	配線を直す。

点検・施工される方へ

もくじ

1.点検のしかた ——— 14～17

●点検する前に …… 14
●通報動作の確認 …… 14
●火災通報ボタンの通報の動作確認 …… 14
●自動火災報知設備の通報の動作確認 …… 15
●通報メッセージの確認 …… 16
火災通報ボタンを押したときのメッセージを聞くには …… 16
自動火災報知設備が作動したときのメッセージを聞くには …… 16
●電池試験の方法 …… 17

2.部品などの交換方法 ——— 18～19

●電池の交換 …… 18
鉛蓄電池の交換 …… 18
リチウム電池の交換 …… 18
●ヒューズの交換 …… 19
●故障時連絡先ラベルについて …… 19
●火災通報装置用火災通報ボタン保護カバーの交換 …… 19
●火災通報専用電話機用火災通報ボタン保護カバーの交換 …… 19

3.定格・仕様 ——— 20

●火災通報装置(BGF1196)の場合 …… 20
●火災通報専用電話機(BGT1192)の場合 …… 20

1.点検のしかた

点検する前に

注 ●自火報点検などで119番への通報を停止する場合は、連動停止スイッチ箱（BGT9010KH）のスイッチで連動停止することができます。

●機能点検時などで119番のみに通報し、一般通報を取り消したい場合は、119番からの逆信（呼び返し）を受けて、通話が終了してから火災通報装置（BGF1196）・火災通報専用電話機（BGT1192）の応答確認ランプが点滅中に通話割込ボタンを押すと、一般通報の取り消しができます。

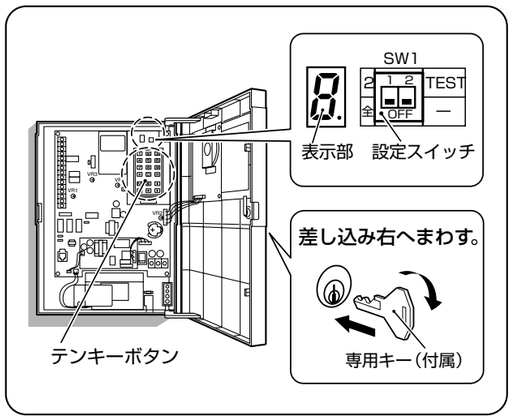
通報動作の確認

●10ページを参照してください。

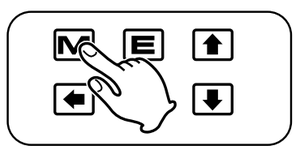
火災通報ボタンの通報の動作確認 （実際の通報動作はしません。）

●この動作試験は、火災通報装置内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、火災通報用押ボタン・通報ベル・確認ランプなどの機器も含めて試験してください。

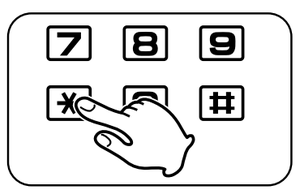
1 付属の専用キーで扉を開ける。



2 テンキーボタンのMを押す。（登録／確認モード開始）

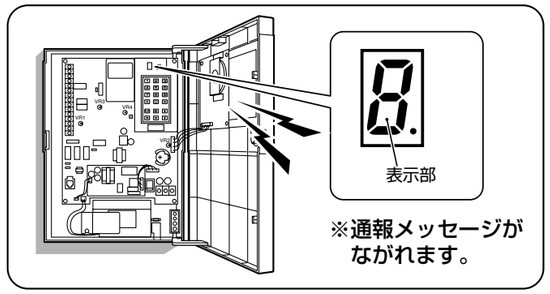


3 テンキーボタン2 3 ✱を押す。

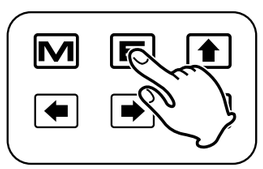


4 表示部に「119」と表示され、同時に「イチ・イチ・キュウ」の音声と通報メッセージがながれる。

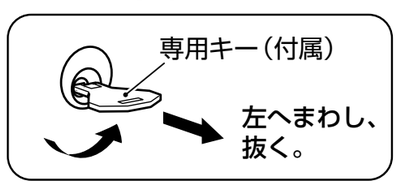
●一般の通報先が登録されている場合は、各通報先の電話番号の数字を順次、1桁ずつ表示部に表示します。



5 テンキーボタンのEを押す。（登録／確認モード終了）



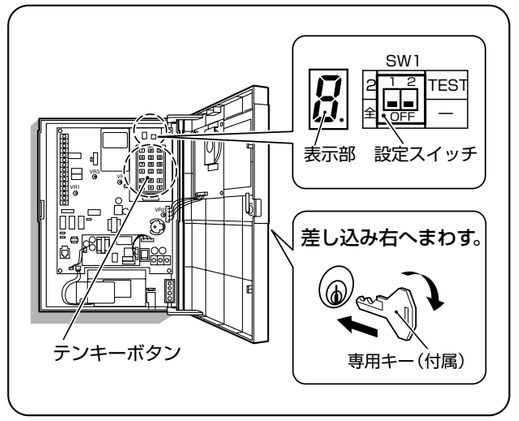
6 扉を閉めて、付属の専用キーで閉める。



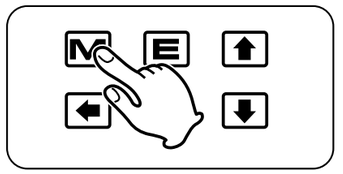
自動火災報知設備の通報の動作確認 （実際の通報動作はしません。）

●この動作試験は、火災通報装置内の試験をします。実際の火災発生時にシステムとして正常に作動することの確認は、自動火災報知設備・火災通報用押ボタン・通報ベル・確認ランプなどの機器も含めて試験してください。

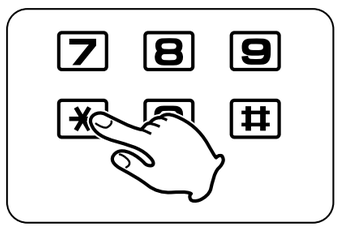
1 付属の専用キーで扉を開ける。



2 テンキーボタンのMを押す。（登録／確認モード開始）

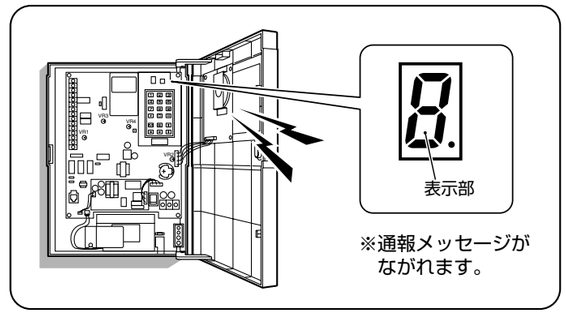


3 テンキーボタン2 4 ✱を押す。

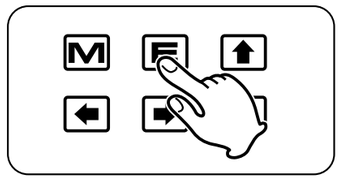


4 表示部に「119」と表示され、同時に「イチ・イチ・キュウ」の音声と通報メッセージがながれる。

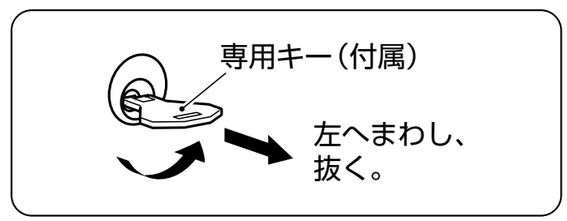
●一般の通報先が登録されている場合は、各通報先の電話番号の数字を順次、1桁ずつ表示部に表示します。



5 テンキーボタンのEを押す。（登録／確認モード終了）



6 扉を閉めて、付属の専用キーで閉める。



1.点検のしかた

通報メッセージの確認

●この確認試験は、火災通報装置に登録されている通報メッセージを確認するものです。

火災通報ボタンを押したときのメッセージを聞くには

1 付属の専用キーで扉を開ける。

2 テンキーボタンの [M] を押す。
（登録／確認モード開始）

3 テンキーボタン [2] [1] [✱] を押す。

4 登録した通報メッセージがながれる。

5 テンキーボタンの [E] を押す。
（登録／確認モード終了）

6 扉を閉めて、付属の専用キーで閉める。

自動火災報知設備が作動したときのメッセージを聞くには

1 付属の専用キーで扉をあける。

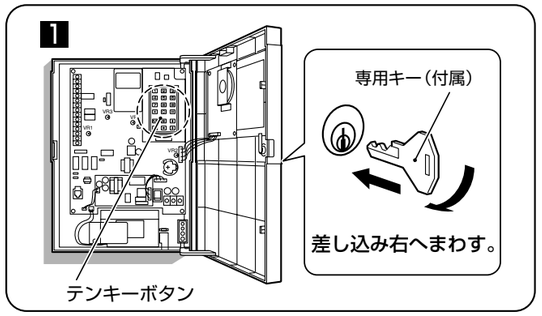
2 テンキーボタンの [M] を押す。
（登録／確認モード開始）

3 テンキーボタン [2] [2] [✱] を押す。

4 登録した通報メッセージがながれる。

5 テンキーボタンの [E] を押す。
（登録／確認モード終了）

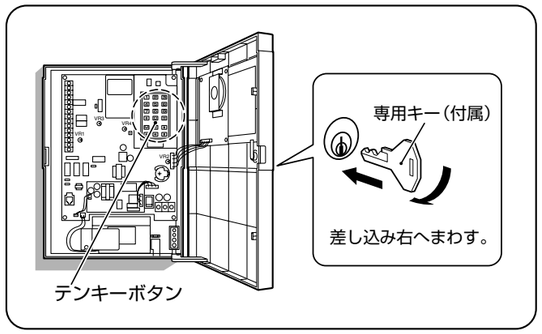
6 扉を閉めて、付属の専用キーで閉める。



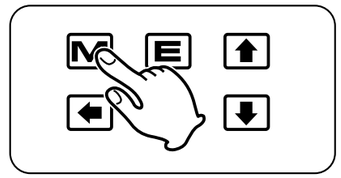
電池試験の方法

●この試験は、火災通報装置の予備電源として内蔵されている鉛蓄電池に異常がないか調べるものです。

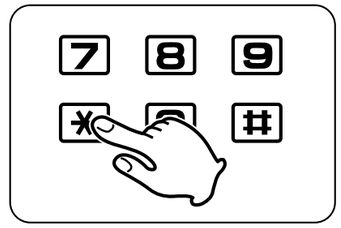
1 付属の専用キーで扉を開ける。



2 テンキーボタンの [M] を押す。
（登録／確認モード開始）

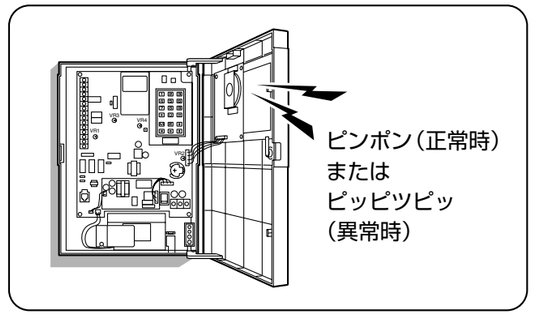


3 テンキーボタン [2] [5] [✱] を押す。

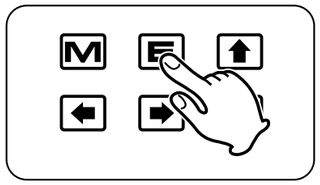


4 正常時はピンポン音、異常時はピッピッピッ音が鳴ります。

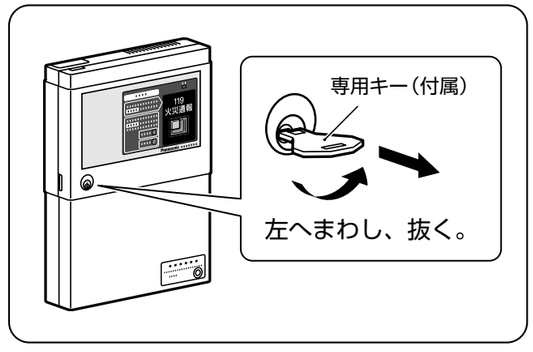
●ピッピッピッ音が鳴った場合、鉛蓄電池を交換してください。（18ページ参照）



5 テンキーボタンの [E] を押す。
（登録／確認モード終了）



6 扉を閉めて、付属の専用キーで閉める。



2.部品などの交換方法

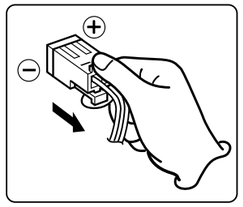
電池の交換

■鉛蓄電池の交換

(注) **鉛蓄電池は、当社火災通報装置専用品をご使用ください。(20ページ参照)**

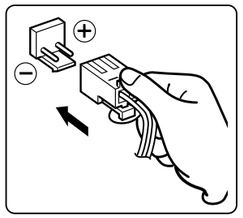
接続コネクタの取りはずし方

●接続コネクタの両端をつまみながらぬき、電池固定金具を取りはずし、鉛蓄電池を取りはずす。



取り付ける場合

●新しい鉛蓄電池の接続コネクタを差し込み、鉛蓄電池を本体内に収納し、電池固定金具を取り付ける。



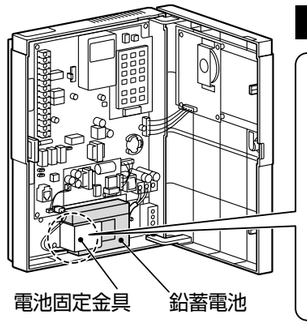
⚠警告

禁止

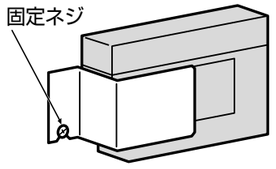
●鉛蓄電池は絶対に分解しない。
鉛蓄電池は内部に劇物の希硫酸を保持しています。鉛蓄電池から漏液した場合は、皮膚や衣服に付着させないでください。万一付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。とくに、液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。希硫酸が目に入ると失明、皮膚に付くとやけどの原因となるおそれがあります。

お願い事項

●鉛蓄電池には寿命があります。取り付け日から1年～3年をめやすに交換してください。停電時、正常に機能しない場合があります。



電池固定金具の取りはずし方



●固定ネジ(1カ所)をゆるめ、電池固定金具を取りはずし、鉛蓄電池を取りはずしてください。

■リチウム電池の交換

(注) **●リチウム電池(CR2032)を取りはずすときは、必ずAC100V電源が「ON」の状態で行ってください。「OFF」の状態で行うと無電源となるため、登録データが抹消されます。**
●リチウム電池(CR2032)(市販品)をご使用ください。

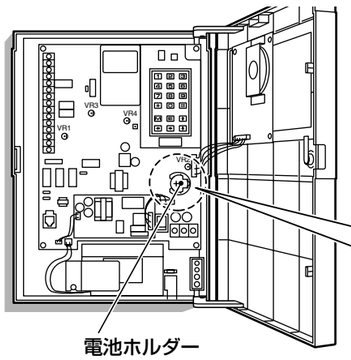
お願い事項

●リチウム電池には寿命があります。
取り付け日から1年～3年をめやすに交換してください。
停電時、登録データが抹消されるおそれがあります。

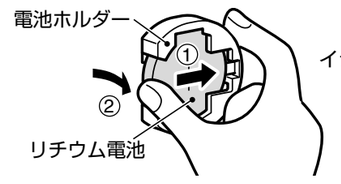
⚠警告

禁止

●リチウム電池を取りはずした場合は、小さなお子様がリチウム電池を誤って飲むことがないようにする。
●リチウム電池はお子様の手の届かないところへ置く。
万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

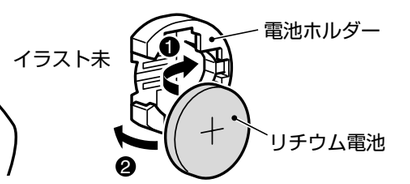


取りはずす場合



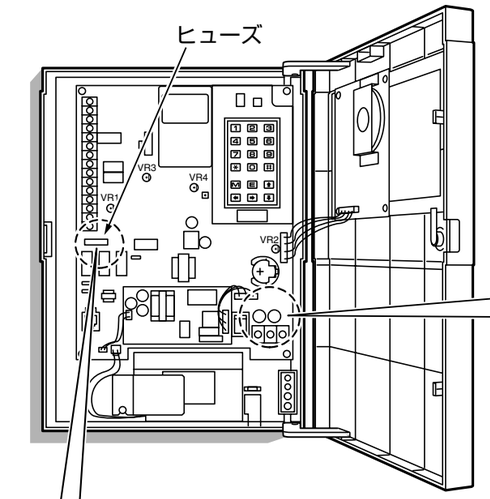
●指でリチウム電池を引っ掛け、おくに押し込みながら上にあげ取りはずす。

取り付ける場合

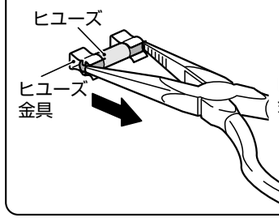


●電池ホルダーのおくまでリチウム電池を押し込みながら下にさげる。

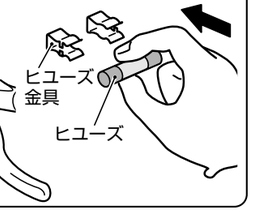
ヒューズの交換



①ラジオペンチなどでヒューズの両端をはさみ、引き抜く。



②付属のヒューズ(0.5A)を指でをつまみ、ヒューズ金具に挿入する。

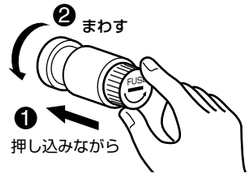


⚠警告

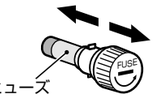
禁止

●ヒューズ交換は電源(AC 100V)を切り、電池のコネクタを抜いた状態で行う。
電源を切らないと、感電の原因となります。
●ヒューズは必ず指定のものを使用する。
それ以外のものを使用した場合、発火・故障の原因となります。

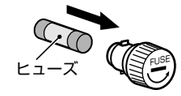
1 ❷まわす ❶押し込みながら



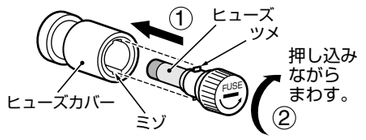
2 ヒューズを抜き取る。



3 付属のヒューズ(1A)を挿入する。



4 ヒューズカバーのミゾにツメを合わせ、押し込みながらまわす。

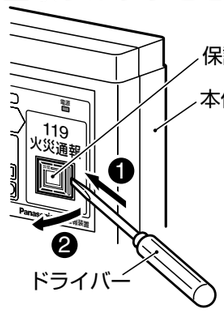


故障時連絡先ラベルについて

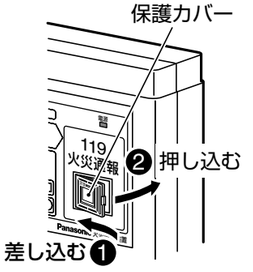
● 所定の欄に故障時の連絡先、電話番号をはっきりと記入して、火災通報装置の近くに貼り付けてください。

火災通報装置用 火災通報ボタン保護カバーの交換

■取りはずすとき

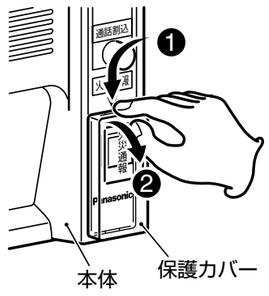


■取り付けるとき

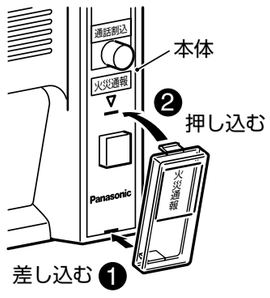


火災通報専用電話機用 火災通報ボタン保護カバーの交換

■取りはずすとき



■取り付けるとき



3.定格・仕様

■火災通報装置（BGF1196）の場合

型　式　番　号	（財）日本消防設備安全センター認定型式番号　火通ー023 号 （財）電気通信端末機器審査協会　技術基準適合認定　S97ー4077ー0
電　源　電　圧	AC100V　50/60Hz
消　費　電　力	警戒時 7VA・警報時 15VA
予　備　電　源	DC12V 800mAh 鉛蓄電池（BGF9902）（60分経過後、10分の通報動作可能（常温））
外　部　電　源	DC12V　300mA
※1適　用　回　線	NTT電話回線または事業所集団電話回線（セントレクス）
回　線　種　別	ダイヤル回線（10/20PPS）/プッシュホン回線
※2通報先ダイヤル番号	119または0119と一般通報先（最大16桁）
通　報　先　容　量	119と一般通報先16ヵ所（合計17ヵ所）
不応答先へのリダイヤル	決められた時間間隔で98回（119番通報時） 決められた時間間隔で17回（一般通報先通報時、オールコール指定）
メ　ッ　セ　ー　ジ	音声メッセージ2種類 （ピピピ・ピピピ・火事です。火事です。…… ピンポン・ピンポン・自動火災報知設備が作動しました。……）
使用周囲温度	−5℃〜+40℃
質　　量	2kg
主要部品材質	ABS樹脂（難燃性）　色彩：オイスターグレー
そ　の　他	●通報内容の録音には、音声ロムパック（BGF92）（別売）が必要です。 ●火災通報専用電話機（BGT1192）を3台以上5台まで接続する場合は、火災通報装置専用電話機増設装置（BGT9305H）が必要となります。 ●火災通報専用電話機（BGT1192）を6台以上接続する場合は、電話機増設装置（Uオーダー品）と増設電源装置（Uオーダー品）が必要となります。

※1. 構内交換機の内側には接続できません。
デジタル回線（ISDNなど）と接続する場合は、必ずターミナルアダプタTA / T（サクサ（株）製）をご使用ください。
※2. 0119は事業所集団電話回線（セントレクス）に接続したとき使用します。
※3. 構内電話機・ファクシミリおよび留守番電話機が接続されている回線には、専用電話機として一般電話機は接続できません。
この場合は、必ず火災通報専用電話機（BGT1192）をご使用ください。

■火災通報専用電話機（BGT1192）の場合

型　式　番　号	（財）日本消防設備安全センター認定型式番号　火通ー012 号 （財）電気通信端末機器審査協会　技術基準適合認定 P96ー0025ー0
使　用　電　源	DC12V　消費電流 30mA
使用周囲温度	−5℃〜+40℃
質　　量	600g
主要部品材質	ABS樹脂（難燃性）　色彩：レッド

MEMO

MEMO

MEMO